年刊アカツキ 2023

「共に知りなおす、改めて言葉にする」

・特集 「ヨソはどうやってるの？！」
・コラム 「ビジネスと NPO」
・地域貢献活動スタディツアー
・支援者の声 「私のおススメ映画」

広告

この足元から、変わっていく

大口寄付を受け付けています

立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」は、大きな企業の資本や国の予算が財源に入っているようなものではありません。多くの一般市民個人、アカツキの会員と支援者からのご寄付をもとに成り立っています。

これまでに、「10 万円～ 30 万円」ほどの大口の寄付を「8 件」頂戴することができ、それによって、助成採択数を「1 団体」から「4 団体」までに拡大することができました。

この規模の継続のためには、引き続きのご支援が必要です。10 万円以上の大口寄付、または知り合いの企業経営者へのご紹介など、ご検討頂けます場合は、ぜひ一度、アカツキ事務局までご相談くださいませ。宜しくお願い致します。

＊同じような助成プログラムを、自分達の地域でも始めてみたいという団体や機関には、私たちの知見を全て無償でお渡し致しますので、こちらもご相談ください。

認定 NPO 法人アカツキ

〒 812-0013 福岡市博多区博多駅東 1 丁目 4-1 中良ビル 505 号室

E-mal : info@aka-tsuki.org　Web : https://aka-tsuki.org/

アカツキの考え方

コンサルティングと相談業務

アカツキのメインの活動に、NPOを対象としたコンサルティングがあります。昨年度の年次報告書でも書きましたが、「助言」や「指導」とされることが多いコンサルティングと違い、クライアントを主体とし、その話を“聞く”ことを主軸に据えています。質問を重ねながら、積極的に整理していく、『『尋ねる→受けとめる→反応する』を根気よく繰り返す」ことだと紹介しました。

しかし、ここ数年、福岡県（コラボステーション福岡）のNPO相談対応業務を受託し、相談対応が増えてきた中で、行うことは基本的に同じですが、コンサルティングとは違う難しさを感じています。

大きな原因としては「時間」です。コンサルティングは短くても半年、長い場合は数年にわたってクライアントとご一緒しますが、相談対応は長くても1時間半。その中でなにかしらの「答え」を求められます。しかし相談者が語る内容が、本当に解決すべき内容ではないことが多々ある中で、応えるべき主訴は何なのか？それは結局「聞く」ことでしか明らかになりません。しかし、聞くことに重点を置きすぎると、相談者にとって満足できない時間になるかもしれません。そうはいっても、団体の状況を踏まえない一方的なアドバイスや指導は、百害あって一利なし。毎回、悩みながら、少しでも相談してよかったな、考える材料になったなと思ってもらえる場をめざし、『尋ねる→受けとめる→反応する』の割合を変えつつ、「反応する」を少し多めに悪戦苦闘している日々です。

（アカツキ職員　白神加奈子）

〈役員・職員〉意識的に対面で

2023年度からアカツキの職員は5名になり、そのうち2名は福岡県外在住となっています。また役員は、監事2名、理事6名の計8名。30～50代と幅広い年齢層で、ジェンダー、セクターのバランスをとった構成になっており、理事の半分が職員を兼務しています。

もともと、アカツキは話し合いに重点を置いてきましたが、コロナ禍を経て、何かとオンラインが増えた今だからこそ、対面での話し合いの場を意識的にとるようにしています。業務的には、オンラインでもさほど不具合を感じることもなく、なんだったら移動時間がなくて楽だなと思うことは多々あります。しかし、お互いの理解やアカツキとしての考え方を共有し、アップデートしていく、そのための時間を疎かにすると、きっと悪影響がでてしまうでしょう。

毎月行っている理事会も、年に1度日帰り合宿を行います。中長期計画を検討した合宿では、半日かけて、やっと一文ができあがったという、タイパが悪いと言われかねない場ですが、こうしてしっかり話し合って積み上げたものは、しなやかで頑丈なものになっていくに違いありません。

職員は、全員が対面で集まる「共有会」を毎月1回、合宿を年1回行うようにしています。また、NPO法人に関する勉強会も新しい職員を中心に有志で行っています。業務そのものの話でなく、活動のベースとなる想いや考え方を皆で共有し確認し続けています。

▲ 理事

◀ 知名監事（右）

◀ 牧園監事（左）

▼ 職員

ビジネスとNPO

【概論】お金以外の動機を設計する

企業に対して、NPOの特徴は「利益を仲間内で分配しない」「情報をオープンにすること」「積極的に誰かに頼ること」等の説明はありますが、いずれも〝手段〟の範囲を超えません。では、果たしてその〝目的〟は何なのでしょうか。

NPO法の背景や理念を学び、現場NPOの活動に接してきて辿り着いたのは、「お金以外の様々な動機を設計する」ということです。ボランティア活動はしばしば、お金が得られ〝なくても〟やることと表現されますが、その言葉には、やむを得ず、つまり、本当はお金を得られた方が良いけれど…というような、消極的なニュアンスが含まれます。

しかし人は、お金以外にも、仲間・つながり・居場所・学び・成長・出会い・他者からの感謝等、様々な欲求を持っています。NPOをビジネスの下位互換に置くのではなく、福祉や人権など、成果を数値やお金に換算すべきではない領域に、人々の動機…つまり参加で得られる利益を設計する、そのことがNPOの役割だと考えられます。

（アカツキ理事・職員　永田賢介）

【実感】「もっと上へ」を疑う

元会社員／現NPO理事・職員の目線から見た企業とNPOの違いは、後者では「〝もっと上へ〟を疑う」ということです。

企業では、業績や個人の能力開発などにおいて、常に今より上を目指すことが不文律です。会社員時代、現状の職位に満足していても、目標シートに「現状維持」という選択肢はありませんでした。もちろん「上へ上へ」という営みが、結果としてサービス・技術の改善や、個人の成長等を実現してきたのも事実であり、実感を持って理解しています。

他方で、アカツキの事業計画を検討したり、クライアントにヒアリングしたりする中で、「もっと上へ」は、誰のため・何のためなのかを確認していかなければ、活動の意義を見失ったり、「上」を目指す過程で別の問題を生むリスクを孕んでいるとも感じています。

NPOには、売上や利益といった定量的に判断しやすい価値基準がないからこそ、自分たちの言葉や対話を尽くして、「ありたい方向」への舵取りをしていく必要があると考えています。

（アカツキ理事・職員　鳥居亜佑美）

「改めまして私です」

相互理解ワークショップ

年度末のアカツキ職員合宿では、お互いのことを知ることに重点を置いた二日間を過ごしました。

特に二日目に実施した、相互理解ワークショップでは、「改めまして私ですシート」というオリジナルのワークシートを使い、「わたしの中身」「活動・仕事のわたし」「わたしのトリセツ」という3つのテーマを切り口にしました。

ワークのお題は、自分が意外だと言われること、今だから言える過去、得意なことや苦手なことなど、個人の内面に重点が置かれており、それぞれの発表から質問を経て、考え方や背景の理解を深めていきました。特に、かけられて嬉しい言葉、逆にイラッとするワード、疲れている時のサインと対応方法については、その人とのコミュニケーションの仕方で心がけることのできるポイントがいくつも見え、今後の仕事に向けて良い時間になったと思います。

それぞれの職員がどんなキーワードを挙げたのか、興味のある方は、職員に会った際に聞いてみてください！

（アカツキ職員　日隈諒）

アカツキが 2023 年度、福岡市の事業として行った「ヨソはどうやってるの？～ NPO 法人運営のアレコレを他団体と語り合ってみる～」、通称「ヨソどう？」。

NPO 運営の現場で起こるアレコレに対して、支援者がアドバイスをするのではなく、現場の団体同士で、それぞれの苦労や知見を持ち寄って共有する取り組みであり、2022 年度に同じく福岡市の委託で行った「先輩 NPO 相談事業」から、更にピアサポート的な意味合いを強め発展させた事業でした。

「ヨソどう？」では、NPO同士が、運営の現場で起こるアレコレに、どう向き合って対応しているのか？お互いの苦労や工夫の経験をおしゃべりする「もちより経験共有会」や、他団体の事務所に訪問してお話を聞き、相談する「お宅訪問」などのプログラムを実施しました。

ポイントは、教える側／教えられる側　に分けないこと。そして、『こうやるのが正しい』という一般化した回答ではなく『自分たちはこうやったよ』という、具体的な主語と知見でやりとりすることです。

もちより経験共有会

共有会の班分けはパン！

アカツキはコーディネートに徹するために、また、福岡市の事業として、アカツキが関わらなくなった後にも、その知見が残されていくよう、「相談対応の心得」や、「マッチングのチェックリスト」という形で、資料にまとめることができました。

お宅訪問

チェックリスト＆心得

NPO マッチングのチェックリスト

NPO 同士を繋いで、運営の悩みや工夫を共有し合ってもらう時、ニーズやテーマはもとより、組織体制の類似性が重要になってきます。事業報告書や決算書、団体のホームページ等から、以下の観点で照らし合わせてみてください。

□　財源構成は近いか？

団体の運営スタイルは、財源によって大きく影響されます。
自主事業による売上・寄付会費・委託事業など、メインになっている収入源によって、事務やマネジメントで重視する事項が変わります。

□　運営体制は近いか？

仕事として給与を受け取って働いているのか、ボランティアで活動しているのか、どちらが良いとか優れているわけではありませんが、それによって、考え方や持っているノウハウが大きく変わります。

□　活動年数は近いか？

団体が設立、活動開始からどれくらい経っているのか、それによって組織のフェーズが変わり、悩み事やその解決策も変遷していきます。
事業の変更や追加、理事・職員の入れ替わりの有無も影響します。

□　メンバーの属性は近いか？

年代や性別などといった属性によって、考え方や価値観に大きな差があります。また、代表など中心メンバーの性格やその職業、キャラクターによっても、通じ合う話が変わってきます。

□　拠点の地域性は近いか？

団体が事務所を置いている、また活動のフィールドにしている場所の地域が、都市部であるか、住宅地か、中山間地域かによっても、関係者や活動のスタイル、それによる悩みも変わってきます。

また一方で、活動分野や課題解決のアプローチが異なる団体と話すことが、新鮮な視点や気づきにつながることも多くあります。自由で多様な活動と、共通して必要な組織運営の工夫、それぞれのバランスを考えて調整してみましょう。

NPO 相談対応の心得

あ　相手の言葉と気持ちを大切にする

相談者の気になることや、お悩みに、必ずしも正解があるわけではありません。だからこそ対応者は、すぐ解決に向かうのではなく、まずはその気持ちを想像し、受け止めることを重視してください。

い　一緒に答えを探す

多くの場合、課題解決の答えを見つける主体は、相談者自身です。
対応者は、「いつ・誰が・どうやって」など、様々な角度からの質問をして、相談者の課題をときほぐしましょう

う　上から目線にならない

自信を失った状態で相談に来られる方もいらっしゃいます。
指導的な振る舞いではなく、自身の経験や苦労話も開示することで、対等性や安心感を生むような心がけが重要です。

え　影響力を意識する

対応者が発する言葉や表情は、思いの外強く相手に残ります。
「こうしましょう」という提案は少しだけ我慢して、
「どうしたいですか？」と、相談者に聞いてみましょう。

お　思い込みには気をつける

相談者の活動の背景は深く、組織の全体像は広いもの。
対応者が耳にした範囲で、完全には理解できません。
わからないからこそ、謙虚に関心を寄せてください。

ヨソどう？に参加してどうだった！？

NPO法人地域ぐるみの子育てをすすめる
ひだまりの会
代表理事 菅 祐子さん（写真中央）

長く続けていた任意団体をNPO法人にした頃に、この福岡市の事業をきっかけにアカツキとつながりました。本来はお金を払って依頼するものと考えていたので、事業のタイミングがよかったです。

わからないことがわからないような、手探りの毎日の中で、はじめに『青少年の自立を支える福岡の会』の代表・柴田亮さんに繋いでもらいお話しする中で「ちゃんとやれてますよね！」という声を頂き、自分たちはこれで良かったんだと安心することができました。また、個別訪問で、私たちの活動場所に来ていただいた時、建物内のルートがわからなかったという声を永田さんからもらって、「立場が違う人が関わることで、初めて気づくことがあるんだな」と思いました。その後すぐにサインを改善し、わかりやすくしました。

自分達が本当に困っていること、組織の課題が「委託事業の仕様書やマニュアルに難しさがあり、現場の煩雑さに関係している」ことだと、明確になってきたのもこの頃、2～3回お会いした後でした。そこで、今度は、同じ事業を他の地域で受託している『ワーカーズコープ』を訪問する機会をつくって頂きました。活動の現場はもちろん大事ですが、限られた予算をどう配分するか、行政に一緒に考えて欲しい時にどうするかなど、活動のベースとなる法人の管理部門を担当する方にお話を聞けたことは、非常に貴重な機会でした。

他にも古賀市で子育て支援をおこなう、『子どもパートナーズHUGっ子』にも伺い、勇気と元気をもらいました。そんな中で、少人数で視察に行っても伝わらない、団体の複数の目で同じものを見ることが重要と感じ、昨年からは年に1回、何とか予算を確保し、全員で学びに行くことにしています。「私達とは違うから」で終わらせずに、何か一つでも引き出したい！持ち帰るんだ！という意気込みで行っていますね。

ヨソどう？のプログラム全体を通じて、何かをパッと解決してもらえるわけじゃなく、他にも頑張っている同志がいる、自分達にもまだできることがあると、励まされることが重要だったと思います。ジタバタしていると何とかなる、少しずつ良くなっていくというのが、今の実感です（笑）。

団体を受入してどうだった！？

認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会

２０２３年12月８日（金）、『ＡＩＰ』事務局長の長嶺千和さん、福岡市職員の方、アカツキの鳥居さんの３名が本部事務所にお見えになりました。当協会からは秋吉名誉理事長・水上副理事長・事務局職員、そしてオンラインで武藤理事長が出席しました。

当協会は２０１４年に福岡県の認定ＮＰＯ法人を取得し、２０１９年に更新、今年度は三期目の更新に入っています。今回のご訪問は、認定ＮＰＯ法人取得を検討されているＡＩＰさんのリクエストによるもので、書類のファイリングのしかたや、寄附（３千円以上を毎年１００口以上）をどうやって集めているかなど、認定取得の際に必要となる業務について、当協会で行っている工夫をお話ししました。

この事業は、非営利団体の運営に携わっている現場同士が知見を共有することで、より良いＮＰＯや市民活動、地域につなげていくことを目的とされているとのこと。今回のご訪問の主な目的は、当協会の取り組みをＡＩＰさんにご紹介することでしたが、同じ非営利でも全く違う活動をされている他団体の職員とお互いの運営についてお話しする機会はなかなかないため、私たち自身も、改めて気づかされたことや教わることがいろいろあり、たいへん有意義な時間となりました。

（事務局　樋口久子さん）

アカツキがご一緒している団体の紹介

岩橋真一郎

髙柳 希

アカツキが関わらせていただいている団体が、どのような理念を持ち、
日々の活動を行っているかをアカツキ理事がお話を聞きご紹介します。

NPO百千鳥

理事
松島 暢志（まつしま のぶし）さん

興味を大事に

『NPO百千鳥』では、これまで受け継がれてきた日本文化にさまざまな人が触れる機会をつくる活動をしています。

日本文化に興味がある、学んでみたい。そう思っても「どこに行けばいいか分からない」「ハードルが高いイメージがある」。そんなふうに思う人がいる一方、職人や伝統に関わる方々は、自分達の文化や技術を広めたくても、人を集めるノウハウを持っていなかったりします。

そんな人達を繋げることが私たちの役割だと思っています。現在は年に数回のイベントと定期的な部活を開催しており、オンラインでの活動も活発です。

この4月に和菓子教室を実施しました。子どもたちが絵を書いてきて、その絵をもとに和菓子職人さんと一緒に和菓子をつくる企画で、子どもたちの新たなアイデアと職人さんの技術のコラボーレーションは大盛況でした。

アカツキの皆さんには「新しく募集するスタッフには何を期待するか」、「業務の役割分担をどうするか」等の話し合いの進行を手伝ってもらいました。メンバーはもともと対話が活発でしたが、自分達だけではなかなかイメージを言葉にして共有することができていなくて、手伝ってもらうことで新たな視点や切り口で話すことができました。

今後は、高齢者・障害のある方・外国の方など、日頃は参加を躊躇ってしまう方々も参加できるイベントを増やしていきたい。できるできないではなく、興味があるかないかを大切に、「やってみたいな」という気持ちを、日本文化に繋げて行ければと思っています。

NPO法人あすも特注旅行班

事務パート職員
池田 裕美（いけだ ひろみ）さん

本業とボランティア

『あすも特注旅行班』は、看護の資格と旅行業の資格を併せ持ち、身体的な介護、医療的なサポートが必要な方への旅行支援や外出支援を主に行なっています。ご依頼は、ホームページから、また病院のケアマネジャーさんを通してお受けすることが多く、他に自治体からのご依頼でバリアフリー啓発のイベントや講演を行うこともあります。

私の本業は看護師です。旅行が好きな自分が「楽しみながら誰かの役に立てることはないか？」と考え、資格や専門性を活かしたボランティアとして参加し、その後、非常勤のスタッフとして、経理事務にも関わるようになりました。

アカツキさんには、その際に、経理事務引き継ぎのサポートで関わっていただきました。業務内容だけにスポットを当ててサポートするのではなく、そもそもNPOとは……という点から詳しく説明をしてくださり、仕事への理解がより深まりました。

ご依頼には様々なケースがあるのですが、4世代家族の温泉旅行で入浴介助をした案件では、終わった後に、依頼主であるお孫さんからお礼のメッセージを頂戴し、とても嬉しく、印象深かったです。

本業の仕事は、施設内という固定された場所での関わり方ですが、あすもはお客様が求める場所、理由がそれぞれ違うので興味深いです。あすもの活動に携わることが、私の本業での活力にもなっていると感じています。

地域貢献活動スタディツアー

福岡県主催、アカツキ企画・運営で「NPOと協働の現場で学ぶ！地域貢献活動スタディツアー」を２回開催しました。１回目は、太宰府･大野城に拠点のある『認定NPO法人チャイルドケアセンター』さん（参加者16名）、２回目は、八女市黒木町に拠点のある『認定NPO法人山村塾』さん（参加者15名）に伺いました。参加者から当日の感想を寄せていただきました。

チャイケア 2024.01.11 太宰府･大野城

コミュニティ全体が豊かに

山田 英行さん

点と点ではなく、面と面（食品提供される企業・個人等と子ども食堂36団体）をつなぎ、フードロス削減と必要な方々への食品分配を効率よくされている現場を見ることができたことが、なによりの収穫でした。

「子ども食堂」には貧困家庭の子らが行く所というイメージが私にはありましたが運営スタッフの話を聞くうちに自分の認識が変わってきました。

親が忙しく孤食となりがちな子供らと地域の大人たちとが交流する機会を提供することで、コミュニティ全体が豊かになるんだぁと気づきがありました。

今回のツアーにはNPOだけでなく、学校関係者、行政職員、企業、学生と様々な属性の方が参加されており、視点が異なる人達との対話から学びもあり、このような機会があれば、また応募したい。

山村塾 2024.02.14 八女市黒木町

町の一員として活動する

松田 芙美花さん

今回山村塾バスツアーに参加し、人口減少・高齢化が進む地域を存続させるためのヒントを得ることができました。山村塾が活動している黒木町をはじめ、地方圏には地域の担い手の減少により存続が危ぶまれる地域が多くあります。そのような地域を存続させるためには関係人口を創出することが重要だと私は考えています。

山村塾は活動を通して地域の担い手となる関係人口を創出することに成功しています。山村塾の活動の大きな特徴は、参加者が「黒木町で農業体験をする」のではなく「黒木町の一員として農業をする」という意識を持ってもらえているという点です。体験や観光をするだけでは関係人口にはなりません。山村塾での活動は準備から後片付けまで参加者主体で行うことで、町の一員として活動するという意識を持ってもらえるようにしています。

私自身も山間部集落の出身のため今回のバスツアーで共感し、学ぶことがたくさんありました。学んだことをいつか地元にも還元したいと思います。

立ち止まり対話するための助成金 AKBNファンド

AKBNファンドとは

AKBNファンドは、事業推進には一切使えない、ミーティングや会議にしっかり時間をかけるための助成金です。財源には企業や国からの資金は一切含まれず、個人の会員や寄付者からのご支援による、自由な用途の資金によって成り立っています。

審査委員には、アカツキの元クライアントや一般企業で働く支援者のほか、マイノリティ属性からの視点を持つ方こそが「有識者」であるという考えのもと、ひとり親やDV被害当事者等に加わってもらっています。

審査会という話し合う場

3年間、AKBNファンドの審査に関わらせていただいて感じたのは、審査会の場ではそれぞれの立場や価値観を当たり前に尊重してお話ができ、どの人の意見も聞く耳を持ち合っていること。助成制度の趣旨を忘れずに話し合える場だということでした。そのことが、全員が本当の意見を出し合うのに大切だなと感じましたし、今後もその雰囲気が守り続けられていたらいいな、と思います。貴重な経験をさせていただいてありがとうございました。

（第4～6期審査委員　田中）

大口寄付をした想い

雪松直子

私はアカツキの職員として、AKBNファンドの助成先団体さんから「これまで、こんなに申請書を書くのが楽しい助成金はありませんでした」という声を寄せて頂いたことがあります。

よくよく伺うと、「他の助成金は、採択と仕事の負担が増えることがセットであったけれど、立ち止まり対話する取り組みは、仲間と話し合う機会がつくられ、自分が抱えている悩みや困りごとが解消するかもしれない！というイメージが描けた」ということでした。

AKBNファンドのプログラムを、理事含む組織の皆で時間をかけ細部まで丁寧につくってきて本当に良かったと感じましたし、今後も長く続いてほしいという想いから、今回、新たに寄付者という立場で関わってみよう！と決めました。

第7期（2024年度）採択団体

会員や寄付者の皆様からのご支援をいただき、運営している「立ち止まり対話するための助成金・AKBN（アケボノ）ファンド」第7期。

Aタイプ:「想い」と向き合う には、全国から13団体の応募があり、NPO法人ぷれいおん・とかち（北海道）、NPO法人たがやす（鹿児島県）、NPO法人みんなの（北海道）の3団体が採択されました（写真左から順）。

Bタイプ：「数字」と向き合う には、2団体の応募があり、NPO法人BSケア（福岡県）1団体が採択されました（写真右）。

立ち止まることの意味

2023年度 AKBNファンド採択団体の報告書より一部抜粋

スタッフに悩みをすべて打ち明ける

NPO法人スカイラボサポートセンター

活動は大きくなってきましたが、収益事業ではないため活動が拡大するほどに運営が行き詰まっていく。スタッフも気づけば50人程に増えましたが、活動趣旨や事業内容を理解してもらえているのか、スタッフの育成や研修も必要なのではないかと思うようになりました。

今回の取り組みの中で実施したのは、この私達運営サイドの悩みをすべてスタッフに打ち明けることにしました。

子育て中のスタッフが多いので、貸切りでゆっくり食事と会話ができるところで食事会を初めて開催しました。「想いを伝える」ということの必要性を改めて感じる機会となり、大学教員のスタッフが大学との連携体制を構築してくれ1月には講演会の開催や学生ボランティアの増員にも繋がりました。

スタッフも増えれば、苦手な人がいたり口調の強い人がいたりと、人とのトラブルもあります。月一回程度、活動後に会議の場（お茶会のような）を設けることで、状況把握や改善に繋げて楽しく活動できるように努めました。

話し合いを通じて個性や才能が発揮され

NPO法人SFD21JAPAN

活動の幅が広がり当法人に対する評価が上がっていく中で、会計や法務・労務などの基盤部分の未熟さは置き去りにされている状況でした。事務局に業務が集中していたことが主な要因でしたが、それはメンバーの一人一人がお互いの立場や役割を尊重・信頼して活動していた結果だったと思います。実は事務局的にはAKBNファンドはすごく気になっていた助成金でしたが、多忙な毎日に会計などの事務関係の話し合いの時間をメンバーに課すのは気が引けていました。しかし余計な心配でした。話し合いを重ねるにつれてメンバーの個性や才能が発揮されていきました。まず当法人の現状を共有し解決策を考え、勘定項目の設定から会計ソフトの活用まで皆で進めていきました。会計部門に疎く〝貸方〟〝借方〟から本で学んだ者、会計処理の経験がありながら「でしゃばらない」と思っていた者、もっと手伝いたかったけど一歩を踏み出せなかった者、AKBNファンドをきっかけにメンバーが少しずつ変わることができたのだと思います。

コミュニケーション研修

ある福祉系NPOから『心理的安全性』をテーマにした、スタッフ向けの内部研修をご依頼頂く案件がありました。しかし、心理的安全性とは何か？という一般論は、インターネットや書籍にも情報が溢れていて、それだけでは敢えて研修にする必要性が高くありません。また、通常はそれがビジネスの生産性向上の〝手段〟として位置付けられていることにも、留意しなければいけません。

実際にアカツキの理事会で心理的安全性について話し合った際にも、誰かが準備して一方的に与えられるものではなく、自分が勇気を持って発言してみること、それを受け止めること、相互作用の結果だろうという話になりました。

そこで、今回は『心理的安全性』の概論は抑えつつ、あくまでも、スタッフの安全や安心、風通しの良い職場環境が〝目的〟として実現するために、非営利組織のマネジメント、また福祉的対人支援の文脈で、『コミュニケーション技術』の紹介に置き換えて研修を設計しました。

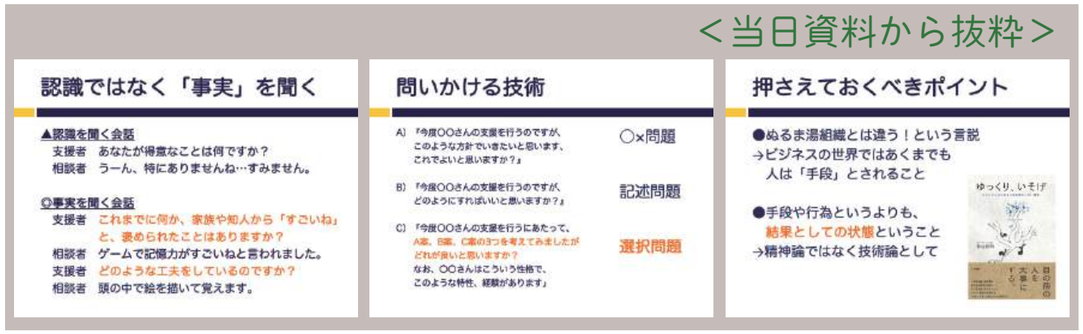
例えば、団体の代表やリーダーにお話を聞く時によく出てくるお悩みは、「メンバーと一緒に考えたいが、会議ではなかなか意見が出てこないため、結局自分が出したアイデアで決まってしまう」というようなものです。

よくよくお話を伺ってみると、メンバーに対して、下記の図のように「○×問題形式」や「記述問題形式」で投げかけがされていることがわかってきました。これでは、なかなか代表やリーダーに対して、皆の前で意見を言うことは難しいです。

そこで、「ABC選択問題形式」、よく例えで説明するのは「鳴かぬなら～～～ホトトギス」の間に入れる言葉、信長・秀吉・家康の誰に近い？というような投げかけ方です。

アカツキは、現場NPOに対して、指導やアドバイスをする立場に立ちません。その分、質問を通じて、聞くことの専門家として貢献します。そこで磨いてきたノウハウを、このような形でまた振り返って整理し、還元していくことも、良い機会となりました。

＜当日資料から抜粋＞



共働アドバイザー 任期満了

2013年から11年間続けてきた、福岡市の「共働アドバイザー※」を、任期満了（再任・更新不可）にて、卒業しました。行政とNPOの間に立って、それぞれの使っている言葉のズレにある背景を解説して調整する他、行政職員向け・NPO向け・相互のマッチングイベントの進行等を担ってきました。

とはいえ、制度は現場にいる行政職員の想いと努力あってこそ！当時市職員の井上さんには、二人三脚で大変お世話になりました。ありがとうございました。（永田）

※正式名称は「共働促進アドバイザー／共働テーブルアドバイザー」

「今、改めて」NPO法のつくり手による解説・勉強会

2023年4月に『「今、改めて」NPO法のつくり手による解説・勉強会』と題した企画を開催しました。講師は、当時NPO法立法活動の中心であった『シーズ・市民活動を支える制度をつくる会』創設者の松原明さんです。

講話では、以下の2つがポイントだと感じました。

NPO法は「価値多元論」に基づいている

NPO法が成立する前の旧・公益法人制度は、行政が判断した「公益＝国民の8割以上が被益するような活動」を増進するための制度でした。しかし、70年代頃から多様な社会問題が発生していく中で、「公益」の範疇に収まらない課題をどう解決するかが、重要なテーマとなっていきます。そうした背景から生まれたNPO法の根本にあるのは、「市民の多様な価値観に基づく自由な活動を促進することで、マイノリティも含む〝市民の公益〟を増進してゆく」という思想です。

NPOの活動内容は「市民」がチェックする

設立の認証において、所轄庁はあくまで申請書類を見て、法律の要件に適合しているか（反社会的勢力ではないか等）を判断します。所轄庁への提出が義務付けられている事業報告書等についても、目的はあくまで市民への情報公開であるため、行政が内容を精査する必要はありません。そこには、「活動をチェックし、その是非やニーズを判断していくのは市民である」という前提があります。

国の法律でありながら行政の管理・監督権限を大幅に制限するという、やや風変わりなNPO法。立法に至るまでの「闘い」を知ることで、事業報告書提出等の手続きが持つ意味・意義を理解することができました。

松原明さん（写真中央）
右の永田の手には「NPO 法コンメンタール」

※レポート全文
はこちらから

https://aka-tsuki.org/news/report/9070/

解決〝しない〟シリーズ再開!!

2023年7月を最後に、しばらくお休みして、企画アップデートしますとご案内していました「解決しない～シリーズ」、2024年5月から復活しました！

永田と鳥居のコンビで進めて参ります。コンサルティングの際に気をつけている工夫、考えていること、質問の技術と聞く姿勢などを、ご紹介していきます。

相手をコントロールしたり導こうとするのではなく、共に合意を探していくコミュニケーションを、皆さんの仕事仲間や友人、家族とのやりとりにも役立てていただければ幸いです。

アカツキ
YouTubeチャンネル
アーカイブは
こちらから▶

会員とのコミュニケーション

オンライン

「正会員の会」はじめました

正会員　小渕亮兵さん

正会員の会が発足したのは、２０２２年の総会案内がきっかけでした。たまたま謎のやる気スイッチが入って総会資料を読み込んでみたところ、気になることがたくさん見つかり、「総会では話しきれん…」と思い、それを書き出して事務局に共有したところから始まりました。

実際の会は、参加者や進め方によって違いはあれど、総会で語りきれなかったサイドストーリーを聞きつつ、気軽に質疑応答しつつといった印象です。

この会の目的は、どちらかというと理解や共感がメインだと思っているのですが、「気になるけど総会の話題ではなさそう」と思うような、ともすると〝面倒〟なモヤモヤにも少し踏み込んでみて、事務局・正会員双方の理解が深められればいいなと思っています。

対面

ふだんどんな活動している？ 活動ロールプレイ in 総会

アカツキが普段の活動でどのような専門性を活かし、どのようなことをしているのか、なかなかオープンにはできないため、イメージがしづらい部分です。そこで、２０２４年度の総会後イベントでは、職員が2人1組で、相談者／アカツキの役割を演じるペアになって、交代で単発相談のロールプレイを行いました。

ＮＰＯ困りごとあるある！な相談ケース設定を事前に4つほど準備し、3分ほどロールプレイのやりとりを見てもらった後には参加者からの質問に対して、解説をしていきました。

コンサルティングは人と人の相互作用であり、「こうすれば→こうなる」という単純なものではないからこそ、その進むプロセスや向き合う姿勢を重視しています。（永田）

無事、認定更新！

アカツキは２０１５年に特例認定を取得。その後２０１８年に認定になり、今回初の更新を行いました。

認定期間は5年なので、２０２３年度になってからだと、あやうく申請期間を逃するところでしたが、勘違いに気づいて胸をなでおろしました。しかし、ホッとしたのも束の間、職員二名体制の時期にはファンドレイジングに手が回らず、寄付者数がかなり少ない年もあり、トータルの寄付者数が認定基準を超えているか!?にもヒヤヒヤ、ドキドキしっぱなしの認定更新になりました。

なんとか皆さんのおかげで、寄付は認定基準の平均１００人／年を超えており、事務手続きや書類にも不備がなく無事認定更新ができましたこと、御礼と共にご報告いたします。

ありがとうございます！

貸借対照表（2024 年 3 月 31 日現在）

資産の部			負債の部		
科目		金額（円）	科目		金額（円）
流動資産	現金	110,507	流動負債	未払金	550,900
	普通預金	5,515,148		預り金	16,280
	未収金	3,105,827		未払法人税等	333,700
	前渡金	1,000		負債の部 合計	900,880
	流動資産 合計	8,732,482	正味財産の部		
			正味財産	前期繰越正味財産額	6,939,804
				当期正味財産増減額	891,798
				正味財産の部 合計	7,831,602
資産の部 合計		8,732,482	負債・正味財産の部 合計		8,732,482

活動計算書（2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日）

科目			金額（円）	前年比
経常収益	受取会費		363,000	81%
	受取寄付金		1,155,062	73%
	受取助成金等		500,000	61%
	事業収益	1. コンサル事業収益	7,511,870	119%
		2. コミュニティ構築事業収益	5,276,376	193%
		3. 調査研究事業収益	0	－
		4. 市民活動助成事業収益	166,906	96%
	その他収益	受取利息	43	83%
	経常収益 計		14,973,257	124%
経常費用	事業費	人件費	6,358,941	95%
		諸謝金	975,560	119%
		会議費	82,945	134%
		支払手数料	28,080	159%
		旅費交通費	1,876,560	206%
		消耗品費	220,739	68%
		印刷製本費	50,083	97%
		交際費	178,641	75%
		租税公課	1,000	24%
		賃借料	48,772	90%
		通信運搬費	256,162	108%
		研修費	15,700	59%
		新聞図書費	35,128	410%
		諸会費	12,000	29%
		支払助成金	731,780	92%
		外注費	761,900	－
		委託費	132,022	55%
	事業費 計		11,766,013	111%
	管理費　管理費 計		1,981,746	126%
	経常費用 計		13,747,759	113%
	当期経常増減額		1,225,498	－
	法人税 / 住民税 / 事業税		333,700	470%
	当期正味財産増減額		891,798	631%
	前期繰越正味財産額		6,939,804	98%
	次期繰越正味財産額		7,831,602	113%

事業収益

事業収益が 1 千万円を超えたため、2 年後は消費税の課税事業者となります。今後、消費税課税事業者にならない財政規模の範囲で収めていくかどうか、理事会での判断が必要です。

コミュニティ構築事業

休眠預金の実行団体と企業のマッチング会コーディネートや、福岡県のスタディツアーの企画実施など、想定していなかった依頼の受託事業によって、単年度の収益が増えています。

旅費交通費

毎月 1 回、職員全員で対面での共有会を行うようにしたことで、福岡県外在住の職員の移動とその費用が、また県外からのご依頼による出張の件数と支出が増えています。

新聞図書費

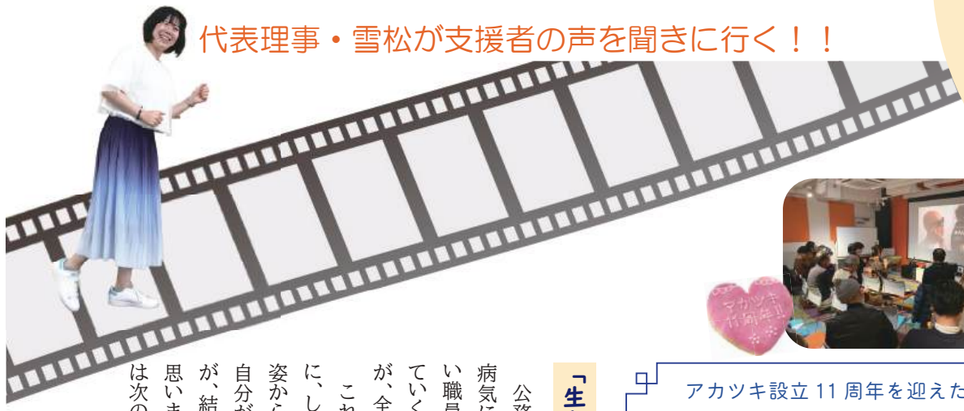
職員のトレーニングや学びに力を入れる方針に即し、それぞれが学びたいテーマから書籍を複数選んで購入しました。

法人税

認定 NPO のメリットの 1 つ、「みなし寄付」を200万円分利用してもなお、黒字が大きく、法人税額が過去最大となりました。

私のおススメ映画

代表理事・雪松が支援者の声を聞きに行く！！



アカツキ設立 11 周年を迎えた 2023 年の周年イベントは、アカツキ初の【映画上映会＆おしゃべり会】。ひさびさに対面で、同じ場所で、同じものを観て、その感想を共有するというプロセスを通して、アカツキに関わってくださる皆さんが日頃考えていること、感じていることを知る機会になりました。そこで、今回のお便りコーナーは代表理事・雪松が出かけていき、おすすめの映画を伺いました。あなたのおすすめは何ですか？

「生きる」

公務員のやさぐれたおじさんが、病気になったことをきっかけに、若い職員に刺激を受けながら変わっていくお話で、すごく昔の映画ですが、全く色褪せていないのです。

これまでは受け流していたことに、しゃかりきに対応していく彼の姿から、「人生やるか、やらないか」自分ができることをやってみることが、結果として人の為になるんだと思いました。けれども、やったことは次の時代に残せても、自分の目では見られないというのも世の中の常なのか。「自分のできる」ってなんだろう？とこの映画から思うことがあります。

（ピーチティーソーダ）

「パディントン2」

ペルーの森から英国にやって来たクマのパディントンの話。クマが人間の世界にやってきて最初に「紳士の国」であることを覚えます。なので、誰に対してもすごく紳士であろうとがんばる。そして、ちゃんとパディントンのままで人間の世界に適応していく。その姿に惹かれました。

特に印象的だったのは、マーマレードを作る時のシーン。これはめっちゃ覚えています。ちゃんと頑張るけど、ちゃんとドジ。けっこうすごい失敗をする。

そんなパディントンをみんなは、そのまま受け入れるんです。クマのまま。そこが好きでした。

パディントン展にも行きました！

（あお）

「シンデレラ・ストーリー」

高校生の時に、空いた時間に寄った市の施設で、面白そうと思って手にしたビデオテープでした。

当時、書くことが好きだった自分と同年代で同じような趣味の主人公が重なったこともあり、不遇な環境にありながらひたむきに頑張る女の子を周りのいろんな人が助けてくれるストーリーに、自分も頑張らなきゃなと思ったのを覚えています。一筋縄ではいかないもどかしさも自分ごとに感じて、人の助けあっての自分だなって気づいた映画でもあります。

（ふぉれすと）

「隣（となり）る人」

児童養護施設での暮らしを映しているドキュメンタリーで、ナレーションもありません。

子どもたちが全身で愛を求める姿など、心がちぎれそうな気持ちになる場面も多くありました。

血が繋がっていてもいなくても、すべての子どもたちが、沢山の愛情を感じながら育つことのできる環境をつくりたいと強く思いました。

『隣る人』を観て11年が経ちましたが、仕事や活動で子どもたちと関わる中で、「私はこの子の隣る人になれているのだろうか」と自問自答してきました。

また、子育てをしながら、子どもが私の「隣る人」であり愛を与えてくれていることに気付けたのは、この映画と出逢えたからだと思います。

（ぐみ）

「バベットの晩餐会」

去年リマスター版の上映があり、30年ぶりにこの映画を見ました。やっぱりよかった！

亡命した先で、家政婦としてなんとか働き口を得た女性が主人公。あるとき、彼女が晩餐会を開きます。故郷に戻りたいと思っていた彼女に宝くじが当ったので、招待された人々はお別れの晩餐会だと思います。食べたことのない、フランス料理のフルコースを振る舞われ、いがみ合っていた人々の心が豊かになっていき……。人々の変わっていく表情がとても印象的でした。

最後に、彼女の正体が明らかにされるのですが、主人公のお金の使い方や料理の手際、潔さがとにかくかっこいいんです!!

（ぷりしょ）

寄付キャンペーン AKBNみくじ

2024年度で4回目を迎えた寄付キャンペーン「AKBN（アケボノ）新年度みくじ」。このキャンペーンやおみくじについて参加した想いや感想をお伺いしました。お話しくださったのは、東京・西八王子でコミュニティバー「もっきんバー」を主宰されている大野さんです。

もっきんバー主宰
大野のどかさん

新しい世界に出会える 自分の扉を開くきっかけに

神社にある一般的なおみくじって、ここ何年も引く気にならないんですけど、どうしてAKBN（アケボノ）みくじは引きたくなるのか、考えてみました。

普通は「大吉」とか「凶」とか、主に運の良し悪しを伝えるものですが、これは言葉や物事、新しい世界に出会える、自分の扉を開くきっかけになる。そんな一期一会を楽しみながら、寄付にもなるなら一石二鳥って感じで、楽しみにしている気がします。2024年度の私は『丸吉』、知らなかったうんちくを読んで「へぇ～」ってなったり、実際にお団子を買って食べたりしました（笑）。

3千円って、決して安い額ではないけど、信頼できる人がやっていることに加えて、いろいろな工夫が凝らされている、手間がかかっている裏側がチラチラ見えているところが良いですね。単にお金のやりとりではなく、プロセスが楽しめる、寄付をしながら良い体験をさせてもらっている感じ。

他の人のおみくじ結果を見てみたいとか、誰かと体験を共有したいという気持ちもあって、毎年度、ニューヨークに住んでいる妹の分も合わせて引いて渡しています。結構、当たっているようですよ！

AKBN（アケボノ）新年度みくじ 2024

2024年4～5月に実施した「おみくじ」型寄付キャンペーンです。81人の方にひいていただき、322,081円の資金をAKBNファンドの原資としてお預かりしました。

また今期から3,001円/5,001円/10,001円の3つから選べるようになりました。10,001円の方には、おみくじ同様に何かの役に立ったり、価値を生むものではないけど、たまに見返して楽しんでいただけるささやかな品をお送りしました。

アカツキの仲間になってくださってありがとうございます（会員一覧）

【正会員】
宇都 龍志 さん　小島 理絵 さん　小渕 亮兵 さん　鈴木 大空 さん　多原 真美 さん　野崎 大雅 さん　富永 沙和 さん　古橋 範朗 さん　大島 隆 さん
稲月 ひかり さん　大庭 勇 さん　原口 尚子 さん　梅崎 友貴 さん　加藤 健太 さん　大倉 慶子 さん　大野 玲奈 さん　森田 義也 さん　日隈 諒 さん
吉田 敦 さん

【サポーター会員】
田邊 絵美 様　坂崎 あゆみ 様　増永 弘子 様　相浦 圭太 様　清水 隆哉 様　河合 将生 様　鹿野 翔 様　白神 加奈子 様　谷口 竜平 様
池本 真一 様　立花 祐平 様　福留 裕一 様　グロス梯 愛依子 様　友永 みなみ 様　工藤 弥生 様　上村 一隆 様　仲西 浩一 様　加留部 貴行 様
兵主 美和子 様　末本 晴香 様　中牟田 政也 様　岩永 真一 様　牧園 祐也 様　谷口 真菜実 様　安西 隆之介 様　吉良 幸生 様　吉崎 謙作 様
濱田 千夏 様　栗原 裕子 様　渡真利 紘一 様　冨士本 和博 様　佐藤 智重 様　多田 育美 様　野田 匠利 様　Huang powei 様　本田 江里加 様
尾中 美穂 様　池田 純一 様　くまくまごー 様　都留 健司 様　佐々木 綾菜 様　野北 崇博 様

【つきつきサポーター】
野崎 大雅 様　フィッシュ 明子 様　大野 玲奈 様　金子 雄一郎 様　津賀 高幸 様　小森 耕太 様　沖野 貴美 様　藤本 正明 様　高橋 あづさ 様
陶山 惠子 様　小島 理絵 様　牛嶋 麻里子 様　寺床 幸雄 様　桜井 光 様　渡司 陵太 様　喜田 亮子 様　湯浅 美和 様　中川 啓子 様
影山 知明 様　北村 政記 様　山中 祥子 様　黒田 美穂 様　渡辺 達彦 様　楢原 真二 様　松原 明 様　大島 一晃 様　北澤 美幸 様　山諸 秀樹 様
藤見 里紗 様　松添 卓夫 様　山本 絵美 様　金本 秀韓 様　岡田 純 様　特定非営利活動法人あすも特注旅行班 様

（2024年6月末現在 氏名公開可の方のみ）